

# 京都教区時報

京都教区広報委員会  
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局  
京都市中京区  
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

## 2022年 司教年頭書簡 「コロナ時代を生きる信仰II

### 「キリスト者の終活を始めよう」を受けて

#### 第11回 あの世のお風呂

一昨年からのコロナ禍によって、私たちの生活は一変しました。と同時に、未知のウイルスの感染拡大によって、死を身近に感じざるを得ない状況になりました。とくに志村けんさんをはじめとする有名人の死は、わたしたちに「人はいつか死ぬ」ということを実感させる機会となったようです。

最初の緊急事態宣言の際に外出が制限されたため、多くの人が断捨離を実行されました。時間があるから、というのもあったでしょうが、コロナで命のはかなさを感じたからというものもあったのではないかと思います。私も物置からダンボール箱を出してきて整理を始めたのですが、中身を出したところで気が失せてしまい、出さなければなしにしてしまったという最悪の結果となっています。

そんな私ですが、とうとう終活を考える機会が与えられました。このたび、白内障の手術を受けることになったのですが、経験者の話では「すぐ終わりますよ」「よく見えるようになりますよ」と聞いたので安心していました。しかし、手術前の検査で「手術後は菌が入らないように、一か月は公衆浴場に行かないでください」と言われました。ということでは「銭湯に行けなくなる」ということではないですか！そんな話は聞いて

ないよー！」と思ったのですが、今さら手術を受けられないわけにはいきません。しかも説明してくださったのが教会の幼稚園児のお母さんというおまけつき。ショックを受けて帰ってきました。一か月以上も大好きな銭湯に行けないのはつらい。



筆者によるイラスト

そこで思い出したのが「おろかな金持ちのたとえ」(ルカ12章)でした。大きな倉を建て、遊び暮らそうと考えていた金持ちに、神は「今夜、お前の命は取り上げられる」と宣告されました。私は金持ちではありませんが、いつまでも今の生活が続くと思いきや、こんでいた点は共通しています。わたしもいつかは銭湯に行けなくなる日も来るでしょう。けれども、それで自分の人生が終わるのではないということを受け止め、きっと神さまがもっとよいものを与えてくださることを信じたいと思います。「神の前に豊かになる」とはそういうことなのではないかと思っています。

奈良で銭湯をなさっていたおばあちゃんのお葬式の説教で、私は「天国に行ったら入りに行くから、お湯を沸かして待っていてくださいね」と話しました。やっぱりあの世でも銭湯に入れたらうれしいなあ。

奈良ブロック担当司教

柳本 昭

12  
2022

## ふるさとの クリスマスの話

主の降誕おめでとうございます。

皆さん、お元氣にお過ごしでしょうか。クリスマスについて、ふるさとの話を分かち合わせていただきます。



クリスマスが近づくと神父として  
する仕事よりも、子どもの中の良い  
思い出がたくさん浮かんできます。  
私にとってクリスマスが一番素敵な  
時期です。それは、メキシコでの家  
族が、救い主であるイエス・キリス  
トの降誕を祝うために一致する時期  
だからです。クリスマス「ナヴィダッ  
デ」には、教会をはじめ、道路、売店、  
それぞれの家庭など馬小屋やクリス  
マス飾り、イルミネーション、音楽  
などを味わいます。

私の一番の思い出は「ラス・ポサ

ダス」です。ラス・ポサダスは、12  
月16日から24日まで行われます。そ  
れは、教会や家庭で主の降誕を祝う  
ための9日間の心の準備の祈りです。  
参加する人たちの中で、子どもたち  
が一番多いです。

ラス・ポサダスは宿屋という意味  
です。それは、「ヨセフはマリアを連  
れて登録するためにベツレヘムに行  
かれ、マリアは初めての子『イエス』  
を産んだ。宿には彼らの泊まる場所  
がなかったから、布にくるんで飼い  
葉桶に寝かせた」(ルカ2:1-7参照)  
という聖書の話を思い起こすことです。  
ポサダスの祈りは基本的にはロザ  
リオを唱えることですが、一連ずつ  
の間にクリスマスキャロルも歌いま  
す。ロザリオが終わったら、子ども  
たちは聖マリアと聖ヨセフの画像を  
持って、ポサダスの歌を歌いながら  
近所の家を巡り、宿を探し求めます。  
受け入れる家族が見つかり(前から  
毎日受け入れる家族が決まっていま  
す)、その家に着いたらそこに入り、  
その家の馬小屋に聖マリアと聖ヨセ  
フを置いて、祈りが終わります。祈  
りが終わったら担当する家族は、参  
加する人たちのためにお菓子や、温  
かい飲み物などをくばります。もし  
て団地の近所の人たちはお菓子を食  
べ、温かい飲み物を飲みながら、い  
ろいろな話をして楽しい時間を過ご  
します。



2015年仙台教区白石教会にて

その楽しい時間を過ごしている間  
に、また別の楽しみがあります。ピ  
ニャータの遊びです。それは、風船  
を丸くふくらませ、その上のにりを  
つけ、新聞紙で貼り固めます。固まっ  
たら、中の風船を抜き取って、出来  
上がった形の上のいろいろな色紙を  
貼り、その中にキャンディやお菓子  
などを入れます。ロープでぶら下げ  
てから、子どもたちは目隠しをし、  
ピニャータの中にあるキャンディを  
取るために、棒を持ってピニャータ  
を割ります。しかし、ときにはピ  
ニャータから出てくるキャンディを  
一つも取ることが出来ない、泣く  
子どももいます。

全ての人は喜びながら私たちの救い  
主であるイエスの誕生日を祝います。  
皆さんのクリスマスの思い出はな  
んでしょうか。

広報委員会担当司祭

ホセ A ゴンサレス



典礼委員会担当司祭 菅原友明

今月のポイント

主よ、わたしは

あなたをお迎えするに

ふさわしい者ではありません。

おことばをいただくだけで

救われます。

拝領前の信仰告白

「百人隊長の言葉」も選択可能に

拝領前の信仰告白はこれまで「主よ、あなたは神の子キリスト、永遠のいのちの糧、あなたをおいてだれのところに行きましよう」というペトロの信仰告白(ヨハネ6・68等参照)の言葉を唱えてきました。これは日本固有の式文で、拝領前の私達の心情にも適って、親しまれてきたと思います。しかし、ラテン語規範版

では、表記の百人隊長の信仰告白(マタイ8・8参照)の言葉を唱えるようになっており、世界中の多くの言語のミサでも、こちらの式文が使われています。このことに配慮して、今回の改訂では、日本語のミサでもラテン語規範版と同じ百人隊長の言葉を唱えることができるようになりました。なお現行の日本固有のペトロの言葉も、引き続き使用することができます(※1)。

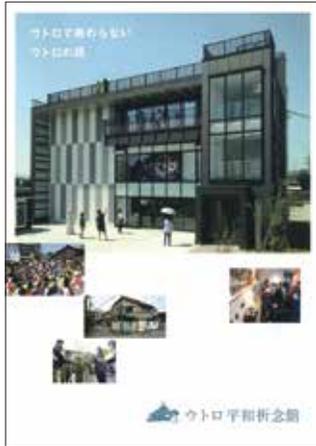
会衆がどちらの信仰告白を唱えるのかは、あらかじめ申し合わせておくことが必要になります。変更するのも大変だし、愛着があるペトロの言葉を今後も唱え続けなければよいという意見もあるかもしれません。一方で、世界の教会との一致を大切にするためにも、ラテン語規範版と同じ式文にするべきだし、百人隊長のこの言葉こそ、拝領前のかたじけない心境にぴったりだという意見もあるでしょう。また両方とも聖書に基づいた素晴らしい信仰告白なので、交代でどちらも唱えられるようにしたいという意見もあるはずです。もとより式文に選択肢があるのは典礼の豊かさに資するためですので、「混乱を避けるため」などという理由で教区として一律に指定するようなことはいたしません。各共同体で豊かな分かち合いや試行錯誤を重ねて、それぞれの状況にふさわしい運用をしていただきたく思い

ます(※2)。

この時報12月号がお手元に届く頃には、すでに新しい式次第でのミサが始まっていると思います。実に40年ぶりの改訂ですので、すっかりなじんでいた式文の変化に対する抵抗や混乱は当然あると思います。混乱や葛藤のプロセスは、共同体の成長と発展にとって大切な恵みの機会にほかなりません。関係各位の長年のご尽力のおかげで、ついに新しい式文によるミサが開始されたことへの感謝と喜びは計り知れません。新しい式文を得た私たちが、キリストのとうとい犠牲を祝う感謝の祭儀を、より豊かなものとしていくことができますように、主の恵みを願いつつ連載を終了いたします。

※1 なお、会衆を信仰告白へと招く司祭の言葉は、これまで「神の小羊の食卓に招かれた者は幸い」でしたが、こちらもラテン語規範版に合わせて「世の罪を取り除く神の小羊。神の小羊の食卓に招かれた人は幸い」に変更されます。

※2 どの式文を選ぶのかというこの問題は、「信仰の神秘」という司祭の呼びかけに対する会衆の応唱についても同様です。ここでは3種類から選択することになります。内容の詳細はカトリック中央協議会「新しい『ミサの式次第と第一』第四奉献文』の変更箇所」50頁をご参照ください。



記念館のパンフレット表紙



報告 正義と平和協議会 藤沢昭子  
10月10日、宇治市伊勢田町ウトロ地区にある、ウトロ平和祈念館を訪問しました。

### 戦争から生まれたウトロ祈念館

ウトロ地区には戦時中、国の政策で飛行場建設のために集められた朝鮮人労働者たちの宿舎が建てられ、戦争から生まれた地域です。戦後も在日コリアンたちが住み続け、様々な困難に直面しながらも声を上げた人々の街です。

ウトロの人々とともに、日本、在日、韓国の市民が協力して、ウトロ地区を守



り、人々の尊厳と生活を守ってきた歴史があります。その歴史を伝えるため、人權の大切さを知らせるため、祈念館が設立されました。

### 戦後のウトロでの生活

戦後、建設現場で働いていた多くの労働者はこの地を去りましたが、一部の人はこの地に留まりました。朝鮮人が戦後も集団生活を余儀なくされたのは、差別のためであり、日本人は朝鮮人に住宅を貸そうとはしませんでした。

住環境が劣悪で、1988年まで上水道も引かれていなかったのです。日本において、30年前まで水道が引かれていない地域があったことに驚きました。住民たちは井戸水で命をつないでいたのです。ウトロ地区は土地が低く、雨が降るとよく浸水しました。このような集落は、無視と迫害の的となってきたのです。

### 民族学校

ウトロ地区に民族学校がありました。劣悪な環境と差別の中、自発的に力を合わせて建てた学校です。この学校は、母国の言葉や歴史、文化を子どもたちに教えていました。朝鮮で受け継がれてきた文化や言葉を学ぶ子どもたちは、きっと胸をわくわくさせたことでしょう。子どもたちの将来のためや在日社会の未来のため、当時の親たちや地区の人々の熱い思いが伝わってきました。1945年に開設された学校は、1949年にGHQと日本政府によって閉鎖されました。

### 声をあげる（土地問題）

住民に強制退去の知らせが伝えられたのは1988年。ウトロの土地を買い取った会社が、住民に土地を明け渡すことを要求したのです。自分たちの生活と歴史を守るため、様々な困難にもめげず、住民はあきらめず、社会の不条理に声を上げ続けました。ウトロ地区の住民とともに、市民の支援の輪も広がっていきました。支援者の人たちは水道問題を人権問題と捉え、署名運動を展開し、1988年に初めて一部の世帯に水道が引かれたのです。



ウトロ平和祈念館にて  
副館長さんの講話をお聞きする

ウトロの地区に会いが生まれ、お互いを理解し、韓国人、日本人の壁を乗り越え、様々な人との繋がりが生まれてきました。

裁判で土

地の明け渡しが確定した後、住民側は市民や韓国政府の支援を得て、土地の一部を購入しました。国と京都府、宇治市が住民向けの公的住宅を整備しています。

こうして、土地の明け渡しという危機を乗り越え、新しい街づくりが進められています。

### 館内の展示から

印象に残ったのは、3階に展示されている住民の方々一人ひとりの笑顔の写真です。2階に展示されている地区の歴史を知らないでこの写真だけを見ていると、笑顔の背景にあるものに気が付かないでしょう。劣悪な環境、差別、ウトロ

を守るための闘い等、様々な困難に立ち向かい、声を上げ続けられた方々の笑顔であることを忘れてはいけないと思いました。

2021年8月30日にウトロ地区で起きた放火事件に関わる資料が、3階の一面に展示されています。この放火事件で、祈念館に展示予定だった多数の資料が焼失しました。

### 訪問を終えて

見学の後、1階のホールで飲んだコーヒーのおいしかったこと。

この施設はすべてボランティアで運営されています。講話してくださった副館長さんのお話はわかりやすく、淡々とした話し方に歴史の重圧を感じることなく学ぶことができ、館内見学も副館長さんの説明により、理解が深まりました。またスタッフの熱き思いが、全館にわたって漂っていました。

今年の4月に開館したばかりなのに、来館者は6千人を超え、小・中学生など、若い世代も来館しています。

人種差別事件は減少するどころか増えている現在、在日コリアンの人々が望んでいるのは、社会的少数者が安心して暮らせる社会です。様々な人と出会い、お

互いを理解する、ウトロ平和祈念館はそのような場所でした。

### 宇治教会訪問

祈念館を見学した後、宇治教会を訪問しました。ルルドの聖母とともに、私たちを迎えてくださった宇治教会の方々に感謝です。

宇治教会の祭壇には、様々な長さの木が26本飾られていました。この教会は日本26聖人に捧げられています。

聖堂で祈りを捧げた後、参加者で分かち合いをしました。今日学んだこと、考えたことを、次の世代に伝えていくことの大切さを感じつつ、帰路につきました。



宇治教会聖堂にて



聖書委員会  
原山裕子

## オンライン聖書講座3年目

京都教区の聖書講座は30年以上も続く講座ですが、コロナによって対面式の講座ができなくなり、オンライン講座を開講して3年目となりました。おかげさまで、今年も多くの方に受講していただくことができました。

## 講座のすすめのことば

講座のプログラムと一緒に、受講者募集案内には「すすめのことば」を掲載しています。そこには次のように書かれて

期日	テーマ	講師
12/1	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
12/8	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
12/15	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
12/22	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
12/29	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
1/5	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
1/12	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
1/19	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
1/26	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
2/2	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
2/9	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
2/16	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
2/23	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
2/28	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
3/6	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
3/13	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
3/20	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
3/27	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
4/3	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
4/10	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
4/17	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
4/24	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
5/1	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
5/8	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
5/15	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
5/22	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
5/29	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
6/5	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
6/12	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
6/19	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
6/26	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
7/3	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
7/10	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
7/17	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
7/24	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
7/31	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
8/7	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
8/14	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
8/21	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
8/28	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
9/4	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
9/11	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
9/18	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
9/25	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
10/2	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
10/9	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
10/16	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
10/23	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
10/30	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
11/6	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
11/13	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
11/20	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
11/27	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
12/4	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
12/11	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
12/18	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子
12/25	「人はなぜ病み、苦しむのか」	原山 裕子

います。

「彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに（イザヤ53・4）」

『人はなぜ病み、苦しむのか』、それはわたしたち人類が誕生以来、ずっと抱えてきた大きな問いです。そして、今コロナウイルスが世界を震撼させており、わたしたちはその対策のなか、改めてその問いに直面させられています。人々の涙ぐましい努力にもかかわらず、その問いは深まるばかりで、光が見えない暗闇のなかに閉じ込められています。そのわたしたちに、今求められているものがあるとしたら、『祈り』『心の平和』『観想』『あたらしい価値観』ではないでしょうか。

聖書委員会では、2022年度の聖書講座のテーマを『人はなぜ病み、苦しむのか―聖書からの問い―』としました。聖書のみ言葉から、聖霊の助けのもとで、その大きな問いに迫り、希望の光を見出していくことができたいと思います。願わくはこの試練の時が、まさに恵みの時、福音の真髄を知る機会となればと念願しております。

## 12名の個性あふれる講師陣

大塚司教はじめ、今年の講座も、個性

豊かな講師の皆さまにお話をさせていただくことができました。講座の骨子を考えたくださっている村上神父にも「はじめに」ということで、お話をいただきました。84歳の神父様、オンラインの録画は初めての経験だとおっしゃり、少し緊張しながらお話しくださったのが印象的でした。

## 今年も多数の受講者に感謝！

講座はユーチューブの録画配信で、視聴期間を3か月間に延長しましたので、受講者の皆さんには大変喜ばれました。

最終的な受講者は276名（4名は1回のみ受講者）、京都教区内144名、教区外132名（海外2名、11教区から）となりました。

担当者が動画編集に精通していないため、講師の作成してくださった動画が頼りですが、音量の小さかった講師の映像に字幕を入れることに挑戦し、なんとか入れることができました。少しずつバージョンアップしながら進められたらと思っています。

来年度の講座は5月開講予定で、現在準備をしています。今後も多くの方に受講していただきますよう、どうぞよろしくお願いたします。



青年のための黙想会  
 「神はわたしに何を望むのか」  
 10月8日(土) 開催

報告 信仰教育委員会 奥埜さと子

「教区の信仰教育委員会主催、「青年のための黙想会」が、菅原友明師の指導で、望洋庵において行われ、11名の青年たちが参加しました。この黙想会は、コロナ禍以前には1泊2日で行われていました。しかし一昨年は中止、昨年はオンラインで行う予定でしたが、中止になってしまいました。今年は、感染対策をしながら午後からの半日のプログラムで、

やっと対面で行うことができました。テーマは「神はわたしに何を望むのか」です。青年たちは、秋晴れの心地良い午後から夕方にかけて、下記のパログラムにそって、静かに、ゆっくり、深い黙想をしました。

第1講話 「探し求めるということ」  
 では、聖書は読むだけで価値があるもの、食べ物と同じで意味がはっきり分からなくても、読むだけで身になるというお話から始まりました。「探しなさい。そうすれば、見つかる」との聖書の言葉から、「何を探すのか」の、「何を」がわからなくても、探すしかないということ、禅画の『十牛禅図』の資料も参考に考えてきました。

第2講話 「いちばん大切なもの」では、聖書の言葉の「自分の命を失ったら、何の得があるのか」の「命」は、「死んでも生きる命」であることについての説明を聞きました。そして、自分の中に最後に残る大切なものは何かを考えました。

第3講話 「呼びかけられるとき」では、「私は呼びかけに答えているか」を考え、神の声は、直接耳で聞こえるわけ



13:00 ~ 14:00	集合・オリエンテーション
14:00 ~ 14:20	第1講話 ルカ 11:9 ~ 10
14:20 ~ 14:40	黙想
14:40 ~ 15:00	第2講話 マタイ 16:24 ~ 26
15:00 ~ 15:20	黙想
15:20 ~ 15:40	第3講話 マルコ 14:3 ~ 5
15:40 ~ 16:00	黙想
16:00 ~ 16:30	ミサ (当日のミサ)
16:30 ~ 17:00	ふりかえり 解散

黙想時間に希望者はゆるしの秘跡  
 黙想は聖堂でも集会室でも庭でもどこでも自由

ではなく、日常の中での様々な出会いから自分で見出していくものであること、また、自分が強く憧れる、惹かれるものには意味があることについて考えました。

黙想の時間では、各々好きな場所で静かに黙想し、ミサの後、ふりかえりと感想を分かち合いました。

コロナ禍で、食事やティータイムなどをみんで行うことはできず、グループに分かれての分かち合いもできませんでした。そんな中で、参加者それぞれが自分の生き方を考え、黙想し、中身の濃い、充実した時間を過ごすことができた半日でした。



## お帰りなさい エミリオ神父さん



エミリオ・フォルトウール神父

京都南部地区協力司祭  
グアダルペ宣教会

生年：1963年 叙階：1992年

1986年に初来日して、京都教区では、92年から5年間、当時の滋賀湖西ブロック（大津・唐崎・安曇川教会）で司牧しました。

2001年6月にメキシコに帰国してから21年間、グアダルペ宣教会の事務所で働いていました。ずっと日本への派遣を希望していましたが、やっと叶えられました。久しぶりの日本、浦島太郎のような気分です。

根気よく、教えてください。

どうぞよろしくお願いいたします。



## ありがとう 花井神父さん



1932年生まれの花井拓夫神父は、今年の5月、90歳のお誕生日を迎えられました。京都教区で57年にわたり司牧していただきましたが、今年の9月をもって引退されました。引退後も、引き続き高野教会に住まわれます。長い間の司牧に感謝し、神父様のご健康をお祈りいたします。



花井神父は、京都市左京区にある高野教会で、教会を訪問される方とお話になったり、庭の草花の世話をされたり、庭に来るハトやスズメと遊んだり、ロザリオを持って散歩されたりと、お元気に過ごされています。

# アドベントのしるし

アドベント (来ませ主よ)

12月は陰暦で「師走す」「師馳す」とも言う。ともかく忙しい時期。心を失うことのないように祈る。

教会では、12月は典礼暦上、待降節(アドベント)として降誕祭(クリスマス)の準備の月となる。昔は

「来臨節」と呼ばれていたように思う。この方が定義通りである。なぜなら「アド」は「側」に、「ヴェントス」は動詞「来る」(ヴェニール)の混成語であるからだ。「待降節」と言えば「待つ人間」に重点が置かれるが、「来臨節」と言えば「来る」神の方が中心になる。意義から見れば、この方が正しいと思われる。キリストが「人となられた」のは、私たちの罪を贖い、人間に尊厳を与えられるための神の憐れみに満ちた自由な恵みの業だからだ。

ところで、主の「アドベント」を私たちはこの時期に限らず、「主の祈り」を唱えるたびごとに体験する。まず「アツバ」と唱える。御子が聖霊によって、父に向かって呼びかけられる。三位の神の本質的な内面の命が輝く。次に「私たちの」と言う時、その神の命の「神秘」に我々が組み入れられる(ロマ8・15、ガラ4・6、マルコ14・3参照)。そして「天と地」、すなわち、「全宇宙」(ロマ8・18、コロサイ1・18参照)も組み入れられ、大きな救いの経緯(エコノミヤ サルーツェイス)の中で「御国の来たらんことを(アドベニアト)」と祈る。

降誕祭を待つ喜びは、神の恵みと憐れみのたまものである。その証しがああベツレヘムの馬小屋と、聖体のホスチアの中にある。

広報委員会担当司祭

村上透磨



## 青年のための黙想会

10月8日、望洋庵で行われた京都教区の黙想会に、青年センターから2名参加しました。カトリックだけでなく、違う切り口から信仰を見つめ直す事ができ、とても充実した時間となりました。またこのような機会があったら、ぜひ参加したいです。

参加者より感想をいただいています。

神父様が配布してくださったレジュメの中で、「サイレント・コーリング 21世紀衝動」の切り抜きがありました。その中で「神の姿が容易には見えないから、簡単にはその声を聞くことが出来ないからこそ、人は見えざるものに目を凝らし、沈黙のしじまに耳を傾ける」と述べられた箇所があります。これは逆に言うと、簡単に神様の声が聞こえたらそれをこなしていくだけの人間になってしまい、自分で考えることをしなくなるよということを伝えています。自分で考えることをしなくなった人間は、ロボットと同じです。人って自分で考えたときにその人らしさが出てくると思うので、考えるってことをするために、見えないものに目を凝らしたりとか、沈黙の時間を作るってことは大切なのかなと思いました。(横浜教区/京都市在住 川崎克之)

私は黙想の時間には、望洋庵の玄関に座って、風の動きを眺めていました。日頃の喧騒を離れて祈る大切さを学ぶことができたと思います。ありがとうございました。

運営委員/河原町教会 橋本仁子

つながりネットワーク 聖めようコミュニケーション

### 京都カトリック青年センター

青年センターは、教区若者による青少年活動について、京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、青年の各誌活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね!



青年センターあんでな

## 大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



## 12月のお知らせ

## 教 区

**青少年委員会**  
**高校生会冬の集い**

27日㊥ 13:00～17:00 福知山教会  
 申込不要 現地集合解散 参加費無料  
 問合せ：sugawara@kyoto.catholic.jp  
 075-611-5695  
 桃山教会・菅原友明神父

**広報委員会**

- 教区時報 2月号の原稿締切日は12月12日㊥です。
- 教区時報 1月号には、毎年「司教年頭書簡」を掲載いたします。  
一人でも多くの信徒の皆さまにお読みいただきたいので、クリスマスまでに各教会に届くようお送りいたします。



## 諸 団 体

**京都カトリック混声合唱団**

現在本来の活動休止中。再開時、団員には連絡します。  
 問合せ：075-951-4283 則武 隆

**コーロ・チェルステ** (女声コーラス)

練習：8日㊥ 10:00 河原町教会 2階楽廊  
 問合せ：075-701-3303 岡田久美

**聴覚障がい者の会・京都グループ**  
**クリスマス手話ミサ**

日 時：6日㊥ 13:00受付 13:00ミサ  
 場 所：都の聖母小聖堂(河原町教会地下)  
 新型コロナの状況により中止となる場合もあります。不明の場合は下記まで。  
 問合せ：TEL・Fax：075-723-1135 傳裕子

**心のともしび**

ラジオ番組案内 (全国34局で放送)

KBS京都 ㊥～㊦ 朝5:55

㊧ 朝5:15

ラジオ関西 ㊥～㊦ 朝5:00

㊧ 朝6:05

毎日放送 ㊥～㊦ 朝5:45

㊧ 朝4:55

12月のテーマ「捧げる」

ホームページもご覧ください。

<https://www.tomoshihi.or.jp>



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。  
 Tel・Fax/079-431-8601